平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	大分学・大分楽(Studies on Oita)			**授業コード**	A028101
担当教員名	後藤　幹雄、安田　幸夫、杉浦　嘉雄、池畑　義人			**科目ナンバリングコード**	A10401
配当学年	1	**開講期**	前期		
必修・選択区分	選択	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	3回～14回の講座のレポート(＝受講感想文)は、原則として毎回、講義をふまえた適切な内容を所定のレポート用紙いっぱいに書きましょう。				
受講心得	本講座は大勢の受講生になることが予想されます。 授業中は、特に私語・居眠り・無断中途退室は厳禁。 これを守れない人は、最初から登録しないようにして下さい。 また、原則として、毎回レポートの提出を義務付けます。				
教科書	使用しません。				
参考文献及び指定図書	にっぽん再発見①大分県　大分県監修(求龍堂)　　大分学・大分楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(明石書店) O-BOOK【大分ガイド】大分県HP				
関連科目	人間力概論、社会参画入門、社会参画応用、社会参画演習、大分の産業				

授業の目的	この講座によって、大分の魅力を多面的に学び・感じてもらうことで、皆さんが“ふるさと大分”を誇ることができ、大分の未来に希望を持てるようになることを期待しています。また、その成果によって、皆さんの今後の大学生活をより充実してくれることを最終的な目的としています。
授業の概要	皆さんが4年間大学生活を送る大分は、とても魅力的なところです。 原生林の山々・広大な草原・サンゴのある海という大自然がある大分、そのため、美味しい水と食材に恵まれる大分。日本一の泉源数を背景にした温泉観光文化と歴史が花咲く大分、「湯の町」「昭和の町」「農家民泊の町」など、とてもユニークでおもしろい町と人たちで満ちあふれる大分。 大分には、私たちが知らない「宝物」がまだいっぱいあるはずです。 これらの宝物を、学生の皆さんが楽しみながらかつ真剣に学んでいこうというのが本講座です。 さて、「大分の宝物」とは何でしょうか。 ・・・それは、先程の例にもあげた自然、食材、産業、文化、歴史、人などです。 それらをまとめると「大分の地域資源」です。 つまり、「大分の宝物」＝「大分の地域資源」と言ってよいでしょう。 大分学・大分楽は、この「大分の宝物」に関わる、 次の3つの『おおいた・がく』から成り立っています。 (1)大分の隠れた地域資源を学ぶ『おおいた・がく』⇒【大分学】 (2)大分の恵まれた地域資源を楽しむ『おおいた・がく』⇒【大分楽】 (3)大分の地域資源をより魅力的に育む『おおいた・がく』⇒【大分穫】＝地域づくり(実践大分学) 皆さんは、1コマ・1コマ、今日の『おおいた・がく』は、どれに当たるか考えながら受講して下さい。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ： スタートアップセミナー(研修) 全カリキュラムの概要の解説、および全カリキュラムにおける『大分学・大分楽』の位置づけや意義などを簡単に解説する。	
第 2 週 ：『大分学・大分楽』とは？　～オリエンテーション～ 『大分学・大分楽』を学ぶにあたって本講座の概要、および次回以降の授業後に毎回予定している「レポート課題」の説明を行う。また、その準備として「レポートの書き方」の演習も行う。	
第 3 週 ：“おおいた”の自然散歩　～自然の魅力とその楽しみ方～ 大分の自然の概要、および自然の魅力について代表的な事例をあげて解説する。また、その楽しみ方についても紹介する。	
第 4 週 ：“おおいた”の文学散歩　～名作をとおして眺める“おおいた”～	

「大分（おおいた）」の語源解説から始まり、大分の代表的な文学とそのゆかりの地、さらには、その魅力について、具体的な事例をあげて解説する。	
第 5 週 ："おおいた"のビジネス　～元気な企業と地域の活性化～ 世界経済、日本経済が厳しい状況のなか、大分の企業、なかでも地場の企業における多様な活躍ぶりを具体的な事例をあげて解説する。	
第 6 週 ："おおいた"の食文化　～大分の食の特徴「発酵食品」～ 大分の食の特徴は、味噌、醤油はもちろん、焼酎にいたるまで発酵食品が豊かなことである。その魅力について具体的な事例をあげて解説する。	
第 7 週 ："おおいた"の海を眺める　～海釣りからみえること～ 大分の海は、釣り人にとって特に魅力的なポイントが多い。その魅力の理由とともに、だんだん環境が悪化している現状も解説する。	
第 8 週 ："おおいた"の虫から学ぶ　～昆虫を通して考える大分の自然～ 大分の自然の特徴は既に学んだが、1つの切り口から深く見ると新たな事実がわかってくる。今回は、昆虫から通した大分の自然を考える。	
第 9 週 ："おおいた"のまちづくり　～日田市の事例から～ 大分の地域づくりは多彩で全国的にも優れている事例が多い。今回は、日田市の事例紹介から、大分のまちづくりを考える。	
第10週：　"おおいた"の地域情報　～GISの活用で見えてきた"おおいた"～ 大分の地域づくりに、今、最新技術のGISが活用されるようになってきた。大分県内の事例をみなだら、大分のまちづくりの応用方法について考える。	
第11週：最も身近な"おおいた"　～ふるさと"大在"の過去から未来まで～ ふるさと大分の中でも、私たち大学関係者にとって最も身近な大在地区。この地の過去から現在までの歴史を学び、その上で、この地域の未来や夢を探る。	
第12週："おおいた"の歴史的建造物　～古代から近現代建築まで～ 大分の歴史的建造物を、大分県内の代表的な事例を、古代から現代まで時間順に紹介することで、大分の歴史的建造物の特徴を考える。	
第13週：最も身近な"おおいたの建造物　～キャラハン邸の歴史から～ 大分の歴史的建造物のうち、NBUにあるキャラハン邸は最も身近な建造物といえよう。この建物の歴史や物語を紹介することで、特徴や可能性を考える。	
第14週：外から見た"おおいた"の魅力とは　～都市のイメージと嗜好性～ 今まで、大分の地域資源を様々な視点から眺めてきた。今回は、大分の外の眼から眺めた「大分のイメージ」を具体的なデータに基づき紹介し、今後の課題を考える。	
第15週："おおいた"のこれから＜まとめ＞ 大分学・大分楽の講義をふり返りかえることで、大分の可能性や課題を再認識する。その上で受講生がを自ら地域貢献できる可能性を考察させる演習も行う。	
第16週：期末試験なし（※評価基準として多くのレポートを課すため）	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①大分県の特徴やその可能性に興味を持つ。
【知識・理解】	②大分県の多様な地域資源に関する基礎知識を身につける。 ③大分県の地域資源を活用した代表的な事業を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	④大分県の多様な地域資源の情報収集に関する基本的な技術を身につける。 ⑤大分県の代表的な事業の情報収集や参画方法の基本を習得する。
【思考・判断・創造】	⑥大分県の地域資源関する知識を使って、それを活用した事業の可能性を考えることができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**25点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**25点**		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**25点**		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**25点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	講義の最後に、毎回、レポート課題（合計７×１２点）を出します。各レポート課題の評価基準は、以下のとおりになっています。 〔６点以上〕 レポート課題の題意を理解し、十分な考察がなされている。 〔５点〕 レポート課題の題意を理解し、考察がなされている。 〔４点〕 レポート課題の題意を理解している。 〔３点〕 レポート課題で要求された分量を満たしている。
発表・その他（無形成果）	